

肉豚の飼養法に関する試験

渡辺 好造・阿部 司・田口 栄・渡部 正樹

(宮城県畜産試験場)

Studies on the Feeding Method of Growing Fattening Swine

Yoshizō WATANABE, Tukasa ABE, Sakae TAGUCHI and Masaki WATANABE

(Miyagi Prefectural Animal Industry Experiment Station)

1 ま え が き

最近、肉豚の枝肉格付上物率の低下が著しく、その改善が強く望まれている。

その原因として、品種の多様化によるところの無計画な雑種生産は勿論のこと、特に多頭飼育による省力化のために飼料の不断給与による飼養法に問題があるのではないかと考えられる。

そこで飼料給与と時間の差異が産肉に及ぼす影響について検討した。

2 試 験 方 法

供試豚は当場生産子豚 L 種 5 腹 30 頭を用い、I 期、II 期に分け、各々表 1、表 2 の通りに区分した。

表 1 I 期試験区分

区 分	供試頭数 (頭)	飼 料 給 与 方 法 (時)		給与時間 (時間)	備 考
		午 前	午 後		
対照区	5	8:00 ~ 8:00		24	♀3 ♂2
A 区	5	8:00 ~ 10:00	14:30 ~ 16:30	4	"
B 区	5	8:00 ~ 9:00	15:30 ~ 16:30	2	"

表 2 II 期試験区分

区 分	供試頭数 (頭)	飼 料 給 与 方 法 (時)		給与時間 (時間)	備 考
		午 前	午 後		
対照区	5	8:00 ~ 10:00	14:30 ~ 16:30	4	♀3 ♂2
A 区	5	8:00 ~ 9:00	15:30 ~ 16:30	2	"
B 区	5	8:00 ~ 8:30	16:00 ~ 16:30	1	"

I 期についての試験期間は昭和54年5月9日から同年9月5日までの120日間(群平均体重 35.8 kg から 102.3 kg)とし、II 期については昭和54年12月19日から翌年4月16日までの120日間(群平均体重 33.7 kg から 102.6 kg)とした。

飼料は豚産肉能力検定飼料を用い、飼槽は5口の不断給餌器を用い、給水はロスカット給水器により自由飲水とした。

表 3 1 日平均増体重並びに飼料要求率

区 分	開始時体重 (kg)	終了時体重 (kg)	増 体 重 (kg)	肥育所要日数 (日)	1 日平均増体重 (g)	飼料消費量 (g)	飼料要求率 (%)
対照区	33.2 ± 4.54	102.1 ± 1.27	68.9 ± 5.18	103.2 ± 14.52	673.3 ± 51.40	254.6	3.70
A 区	32.4 ± 5.47	102.1 ± 2.00	68.7 ± 6.49	104.6 ± 15.96	672.6 ± 55.39	246.6	3.54
B 区	33.2 ± 3.89	101.7 ± 1.73	68.1 ± 3.67	104.6 ± 11.50	659.9 ± 54.48	222.9	3.25

飼料要求率で示すと対照区 3.70、A 区 3.54、B 区 3.25 と給与時間が短くなるにつれて著しく低くなる傾向がみられた。

(3) 屠体成績について：屠体成績についてみると、表

肥育終了時の屠体解体並びに屠体調査は豚産肉能力後代検定の方法に準じて行った。

3 試 験 結 果

1. I 期についての産肉成績

(1) 发育について：肥育期間中の发育曲線を示すと図 1 の通りである。

試験開始後 4 週から 5 週目の中間において水道工事のため飲水の不足が生じ发育が停滞したほか肥育期間中の发育は各区に顕著な差はみられなかった。

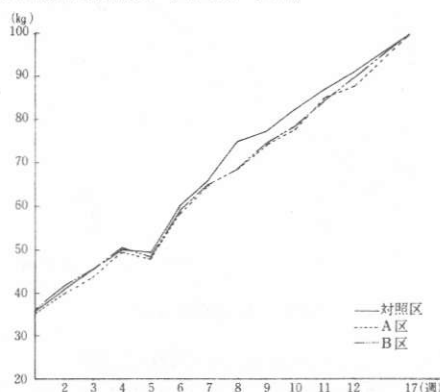


図 1 I 期发育曲線

(2) 所要日数と 1 日増体重並びに飼料要求率について：表 3 に示す通り、肥育期間の所要日数では対照区 103.2 日、A 区、B 区は 104.6 日で差がなく対照区が僅かに早かった。

開始体重及び終了体重は対照区が 33.2 kg から 102.1 kg、A 区 32.4 kg から 102.1 kg、B 区 33.2 kg から 101.7 kg だった。増体重は対照区 68.9 kg、A 区 68.7 kg、B 区 68.1 kg で 1 日平均増体重で表わすと、対照区 673.3 ± 51.40 g、A 区 672.6 g ± 55.39 g、B 区 659.9 g ± 54.48 g で対照区と試験区との間に著しい差は認められなかったが、やや B 区が少ない傾向がみられた。

4 の通りにロースの太さにおいては対照区 17.5 cm、A 区 18.7 cm、B 区 19.7 cm で給与時間が短くなるにつれて太くなる傾向を示し、又、背脂肪の厚さについても対照区より試験区がやや薄い傾向がみられた。

表4 と体成績

区分	絶食時重 (kg)	冷と体重 (kg)	と肉歩留 (%)	背腰長Ⅱ (cm)	と体巾 (cm)	ロース		背脂肪の厚さ (cm)	ハムの割合 (%)	枝肉評価点
						長さ (cm)	太さ (cm)			
対照区	98.4 ± 1.48	72.8 ± 1.46	74.0 ± 2.01	72.3 ± 1.72	33.5 ± 0.93	55.0 ± 1.54	17.5 ± 1.10	2.3 ± 1.10	33.6 ± 1.88	78.4
A区	98.4 ± 1.51	74.2 ± 2.09	75.5 ± 3.21	73.6 ± 2.70	33.9 ± 0.94	56.6 ± 2.04	18.7 ± 2.08	2.2 ± 0.15	33.2 ± 1.10	77.6
B区	97.1 ± 1.82	70.7 ± 1.62	74.0 ± 3.19	72.7 ± 0.97	33.1 ± 1.08	55.7 ± 1.45	19.7 ± 2.08	2.2 ± 0.05	33.6 ± 0.68	78.4

その他の調査項目においては各区間にはほとんど差は認められなかった。

2. II期についての産肉成績

(1) 发育について： 肥育期間中の发育曲線を示すと図2の通りである。

A区は対照区より、B区はA区より劣っているが、12週

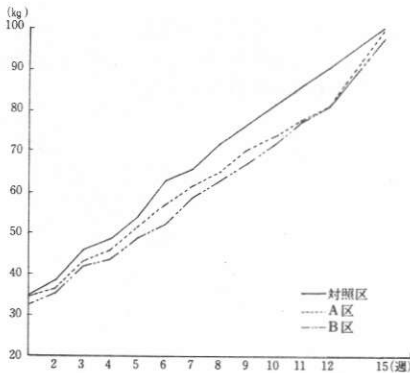


図2 II期发育曲線

表5 1日平均増体重並びに飼料要求率

区分	開始時体重 (kg)	終了時体重 (kg)	増体重 (kg)	肥育所要日数 (日)	1日平均増体重 (g)	飼料消費料 (kg)	飼料要求率 (%)
対照区	34.7 ± 3.30	102.8 ± 3.26	68.1 ± 1.25	96.0 ± 12.10	718.7 ± 97.56	260.1	3.82
A区	32.1 ± 2.43	101.9 ± 1.08	69.9 ± 2.39	108.8 ± 10.62	645.8 ± 49.05	254.5	3.64
B区	34.5 ± 3.69	102.6 ± 2.37	68.0 ± 3.41	107.4 ± 10.38	637.7 ± 41.15	247.5	3.63

表6 と体成績

区分	絶食時重 (kg)	冷と体重 (kg)	と肉歩留 (%)	背腰長Ⅱ (cm)	と体巾 (cm)	ロース		背脂肪の厚さ (cm)	ハムの割合 (%)	枝肉評価点
						長さ (cm)	太さ (cm)			
対照区	99.6 ± 2.70	76.6 ± 1.62	77.0 ± 1.50	71.2 ± 2.26	34.6 ± 1.26	54.1 ± 1.88	20.4 ± 3.69	2.6	33.1	78.4
A区	99.4 ± 1.98	74.4 ± 2.24	74.9 ± 2.48	71.9 ± 2.79	33.4 ± 1.30	53.8 ± 2.84	20.6 ± 2.62	2.4	33.5	79.6
B区	99.3 ± 1.70	76.1 ± 1.56	76.6 ± 0.72	71.1 ± 2.16	33.6 ± 1.23	54.0 ± 2.26	19.1 ± 1.93	2.4	33.6	78.8

4 要 約

(1) I期の試験について： B区は发育においては対照区、A区よりも劣るが飼料要求率が著しく低く、屠体成績におけるロースの太さにおいても太い傾向がみられた。

したがって給与時間が2時間であっても適用されるものと考察された。

(2) II期の試験について： 給与時間1時間のB区は发育においては対照区、A区と比較してみると劣り、飼料要

(80 kg)時点からほとんど差が認められなくなった。

(2) 所要日数と1日増体重並びに飼料要求率について： 表5に示す通り開始体重及び終了体重は対照区34.7kgから102.8kg、A区32.1kgから101.9kg、B区34.5kgから102.6kgだった。

増体重は対照区68.1kg、A区69.9kg、B区68.0kgであり、肥育所要日数は対照区96日、A区108.8日、B区107.4日だった。

1日平均増体重で示すと、対照区718.7 ± 97.56 g、A区645.8 ± 49.05 g、B区637.7 ± 41.15 gで給与時間が短縮されるにつれて増体重が少なくなる傾向を示し、发育の偏差についてみると給与時間が長くなるほどバラつきが大きくなる傾向がみられた。

飼料消費量では対照区260.1kg、A区254.5kg、B区247.5kgで、これを飼料要求率で示すと対照区3.82、A区3.64、B区3.63で対照区より試験区が低い傾向を示した。

(3) 屠体成績について： 屠体成績についてみると、表6の通り背脂肪の厚さは試験区がやや薄い傾向がみられ、かつ枝肉評価点が高い傾向がみられた。

その他の調査項目については各区間に顕著な差は認められなかった。

求率でも対照区よりは低いA区との間にほとんど差がみられなかった。

屠体成績におけるロースの太さにおいてB区が対照区とA区に比較してやや細い傾向がみられた。

背脂肪の厚さでは対照区より薄く枝肉評価点ではA区が高い傾向がみられた。

以上のように産肉性や肉質からみて、給与時間が2時間のものをもっとも適すと推考される。